



東地申第1号

6月17日 第1回交渉—その3

「JR東労組東京地本第35回定期大会発言及び支部大会発言」に基づく申し入れ

3. 発生している事故・事象については原因を究明し対策を講ずるとともに、現場に安全が構築される体制を築くこと。また、度重なる列車妨害の実態について明らかにし、職場に不安と過度な負担の無い万全な対策を行うこと。

会社
回答

発生した事故・事象については、その原因や背後要因を究明し対策を策定しており、繰り返しの指導・教育で再発防止を図っているところである。また、輸送や車両、設備に対しての悪質な妨害行為に対して、繰り返し注意喚起を行い、グループ一体で警戒警備を強化している。引き続きお客さまに安全で安心してご利用いただくとともに、社員が安心して業務に専念できる環境を整えていく考えである。

- 組合 申し入れを行った当時、列車妨害が多く発生していた。現在も含めて、列車妨害の状況や特徴点があるか明らかにすること。
- 会社 昨年5月の月200件をピークに減少傾向にある。合図灯やフライ旗の紛失が多かったが最近は見受けられなくなった。しかし、現在も続いている。シート切りや、線路内に物を入れる行為なども発生している。
- 組合 5月や6月が多いのか。
- 会社 毎月の傾向は把握していないが、車両への傷付けや広告破損がある。最近では、参議院選挙を控えて、政治絡みのいたずら書きが増えている。
- 組合 会社として対策はしているのか。
- 会社 オリピック・パラリンピックに向けて、柵のかさ上げなどを行っている。また、G20に向けて見える防止策として警備員を増配置している。
- 組合 鉄道妨害によるお客さまのけがの発生などはあるのか。
- 会社 実際、新幹線車内でマチ針が置かれていて受傷している。今のところ、把握していない。新幹線については、警備員を配置して対策を行っている。
- 組合 鉄道妨害は労働組合としても許されないスタンスである。何かあれば労使で議論を行う、情報の共有を図っていききたい。
- 会社 その通りである。
- 組合 回答にある通り、社員が安心して業務に専念できる環境を具体的につくり出すべきである。執務室内に防犯カメラを設置することが安心して働ける環境ではない。品川駅では、異常時に警察に通報するシステムが作動しなかった事象も発生している。即座に対応できる環境・設備の整備を目指すべきである。
- 会社 これからも、必要な場所については安心して働ける環境整備を行っていく。

**列車妨害は労使で許さないこと！
必要に応じてお互いに情報共有することを確認！**

確認！

- 組合 国土交通省から警告書が出されたが、会社はどのように受け止めているのか認識を示すこと。
- 会社 国土交通省からの文書は警告書ではないが、警告書同様の認識で受け止めている。
- 組合 現場で周知されていないが、社員周知を行うこと。
- 会社 国土交通省に会社として具体策を返すものである。会社としては、回答書として社員周知を行っている。
- 組合 工務職場で死亡事故が発生した場合、以前は原因をきちんと把握するまで一度工事を止めていたが、今は工期ありきになっている。事故や事象については真摯に受け止め、一旦工事を止めること。
- 会社 原因・背後要因を含め、予防策を策定している。死亡事故が発生した場合、原因・背後要因を考えながら対策を行っているので、全て止めるとはならない。
- 組合 この1年間で、事故・事象で把握していることはあるのか。
- 会社 各職場で事故を起こさないように対策を取っているので、感謝している。急増したとは考えていない。
- 組合 ダイヤ改正以降、乗務員の間では「疲れた」という言葉が合言葉になっている。疲労が絶えない。事故・事象の半数は慣れや思い込みによるものである。私たちはヒューマンエラーに真摯に向き合っていかなければならないが、今、その力が落ちている。原因究明の視点からどのように考えているのか。
- 会社 行路については、運輸車両部が現場と意見交換をして過度な行路を作成しないようにしている。原因究明については、これまでどおりしっかりやっていく。
- 組合 今後、生活総合サービス企業を目指すには現場第一の安全風土が重要だ。
- 会社 その通りである。
- 組合 北松戸駅で発生した事象は、重大な事象であると認識している。3ヶ月以上経過しても事実関係が明らかにならないのは異常だ。
- 会社 その件に関しては、別途窓口で説明を行う。

**現場第一の安全風土を
つくり出すことを確認！**

**北松戸駅の事象は別途窓口で
整理することで第3項終了！**